

日時 令和2年7月30日(木)
授業場

生徒 6年生
授業者

1. 単元名

作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう 「やまなし」

2. 単元の目標

- (1) 擬声語や擬態語、比喩表現に着目しながら、賢治の美しい表現の世界を感じ取ることができる。
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
- (3) 賢治の理想などが分かる伝記や様々な物語など宮沢賢治作品を幅広く読み、それらと関係付けてやまなしを読んで考えことをまとめようとしている。

3. 評価規準

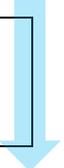
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 擬声語や擬態語、比喩表現に着目しながら、賢治の美しい表現の世界を感じ取っている。	ア 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(エ) イ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(オ)	ア 賢治の理想などが分かる資料や様々な物語など宮沢賢治作品を幅広く読み、それらと関係付けてやまなしを読んで考えことをまとめようとしている。

4. 単元のデザイン (全8時間)

次	○学習活動・学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	○既習の作品の題名を分類することを通して、題名に着目すると作者の思いや願いが込められていることに気付き、「やまなし」には、作者のどのような思いや願いが込められているのかを探ろうとする学びの必要感をもつ。	●既習の作品の題名の意味について交流することで、題名に作者のどのような思いや願いが込められているのかを探る意味や意義の納得が図られるようにする。			ア
	○宮沢賢治作品の読書経験について交流した上で、「やまなし」を読み、他作品との共通点・相違点について考える。	●宮沢賢治独特の表現や世界観に触れさせ、宮沢賢治作品の共通点・相違点について考えることができるようにする。	ア	ア	
	○「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や人柄について、感想を交流する。	●宮沢賢治の生き方と宮沢賢治作品の関連について考えることができるようにする。		ア	ア
2	○五月の世界が、どのような世界かについて考える。	●言葉を吟味させるために、五月がどのような世界かを考える学習課題を設定し、作者の表現の工夫とその効果について考えさせる。	ア	ア	
	○十二月の世界が、どのような世界かについて考える。	●言葉を吟味させるために、五月がどのような世界かを考える学習課題を設定し、作者の表現の工夫とその効果について考えさせる。	ア	ア	
3	○五月と十二月の対比構造に基づいて話し合うことを通して、賢治の生き方・考え方と重なる部分のあることに気付き、賢治が「やまなし」という題名に込めた思いや願いについて考える。	●言葉と言葉をつなぎながら自分の考えを深めるために、賢治の生き方・考え方、やまなしという題名の意味、友達の考えを関係付けて自分の考えを再構築させ、自分なりの解釈をもたせる。		イ	
	○宮沢賢治の生き方・考え方や表現の工夫から物語が描かれた世界を自分なりに捉えたことをまとめる。	●賢治の生き方・考え方、「やまなし」という題名の意味、友達の考えを関係付けて、自分なりの解釈を整理させる。		イ	ア
	○宮沢賢治の他作品を読み、作者の生き方・考え方	●学習に対する有用感や成就感を味わわせ		イ	ア

■ 国語科 【正確に理解し適切に表現する資質・能力を育む児童生徒の育成】

	や表現の工夫から物語が描かれた世界を自分なりに捉えたことを交流する。	るために、自他の解釈の違いから相手の解釈や観点に基づいた解釈のよさを伝え合う相互評価をさせたり、自分の解釈を自己評価させたりする。			
--	------------------------------------	---	--	--	--



5. 本時の展開 (6/8)

(1) 本時の目標

五月と十二月の対比構造に基づいて話し合うことを通して、賢治の生き方・考え方と重なる部分のあることに気づき、賢治が「やまなし」という題名に込めた思いや願いについて考えることができる。

(2) 本時の展開

学習活動 児童・生徒の姿 教師の働きかけ (○発問, △補助発問, □指示・説明)	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
1. 「やまなし」以外の題名を考えさせることで、なぜ「題名」を「やまなし」にしたのかという疑問をもたせる。 ○宮沢賢治が書いた「やまなし」に題名を付けるとしたら、どんな題名にしますか。～Ⅰ	・題名には作者の思いや願いが込められているため、賢治の写真を示し、「やまなし」を書いた作者がどのような人物であったのかを想起させる。 ・「やまなし」に自分だったらどのような題名を付けるかを考えさせ、「よさそうな題名が他にもあるのに、なぜ『やまなし』にしたのか」と問うことで疑問をもたせ、学習課題を設定する。 ・五月のカワセミが命を奪う存在であったことから、殺生を好まない賢治の生き方・考え方と反対であること等を見だし、題名に取り上げなかった理由を類推させる。 ・「カワセミ」と「やまなし」はどんな関係になっているかと発問する(自然とLFを発揮し、「カワセミ」と「やまなし」の関係性について議論になることもある)ことで、児童の思考を五月と十二月の比較・対比に誘う。 ・「やまなし」の意味と、導入で確認した賢治の生き方・考え方で重なる部分を見いだして考えている児童の考えを取り上げる。必要に応じて、「賢治の生き方・考え方ややまなしの重なるところがあるのか」と問う。
・小さな谷川の五月と十二月。 ・五月と十二月のかにの生活。 ・弱肉強食 ・かにの兄弟の成長。 ・かにの親子 ・かわせみ ・カワセミの恐怖。 ・小さな谷川の底 ・クラムボンとかに	
2. 「やまなし」の題名の意味について話し合う。 □どうして、宮沢賢治は、「やまなし」という題名にしたのでしょうか。	
・「やまなし」は、平和な十二月に登場するし、カワセミと違って、命を与えてくれるものだから、強調したいと考えたのだと思う。 ・五月のカワセミが命を奪うものであったから、殺生を好まない賢治と生き方・考え方と違うね。 ・五月の恐怖の世界よりも、十二月の平和な世界のことを訴えたかったのではないかなと思うよ。 ・「やまなし」が命を与えるものっていうところは、よく分かる。逆に、カワセミは、命を奪うものだから、賢治の考え方は正反対だね。肉や魚を食べない賢治は、命を大切にする人だから。 ・「やまなし」が、かにたちのお酒になるっていうところは、人のために尽くしているように思える。それが、賢治の生き方と重なっていると思う。つまり、自分の理想を表すために、「やまなし」という題名にしたんじゃないかな。 ・賢治の生き方・考え方の「人のために尽くすことって大切だよ。」という思いを広げるために、人のために尽くす「やまなし」を題名にしたのだろうと思う。	
3. カワセミとやまなしは、どんな関係かな? ～Ⅱ	
・やまなしは、かわせみと反対で、自分が食べられることで命を与えるものだよ。 ・やまなしは、かにの兄弟げんかを終わらせてくれたよ。だから、平和の象徴じゃないかな。 ・クラムボンや魚がカワセミに食べられたので、「カワセミ」は自然の怖さを感じさせる存在だと思うな。 ・天井から落ちてきたやまなしが酒になるので、「やまなし」は恵みを与える存在だと思うよ。 ・「カワセミ」は「死の世界」で、「やまなし」は「生の世界」だと思うよ。	
4. 賢治の生き方・考え方ややまなしの作品で重なるところがありますか?	
・賢治はやまなしのように犠牲になる生き方を求めているのではないかな。 ・賢治は、自分を犠牲にしても人に幸せを提供するように訴えているのではないかな。 ・人を傷つける、周りの人を幸せにする生き方。 ・自分の死が他を幸せにするような生き方 ・青白いほのおは死んだやまなしが天国に行ったほのおでは? 青いほのおも美しく燃えている。 ・やまなしは平和・祝福などの意味を表すと思う。 ・やまなしは、穏やかさ、幸せをもたらす等、賢治の望む世界、願いを象徴している。 ・題名の「やまなし」は、やまなしのように人に安らぎを与える生き方をしたいという宮沢賢治の願いを象徴しているのではないかな。 ・やまなしが賢治自身で、みんなに幸せをもたらしたいという願いをもっているのではないかな。	
5. 本時のふり返りをする。 □賢治が「やまなし」という題名に込めた思いや願いについての自分の考えを整理する。	
・「五月」「十二月」という自然の移り変わりをじっと見つめ、季節によって変わる自然の姿に対して、優しさや愛情をもって接している賢治の優しさが感じられる。 ・自然の怖さを象徴している「かわせみ」、自然の優しさ・豊かさを象徴している「やまなし」の両方を描くことによって、自然をありのままに受け止めることの大切さとともに、その中に表された賢治の優しさを感じることがきる。 ・つらいことも乗り越えて、たくましく生きていこうという願いが込められている。 ・賢治は、2枚の幻灯で自然の美しさ、生命の厳しさ、豊かさを伝えている。題名を「やまなし」にしたのは、自然の豊かさや平和な世界を伝えたいという願いを込めているからだと思う。	

◇【思・判・表】
 ・五月と十二月の対比構造に基づいて話し合うことを通して、賢治の生き方・考え方と重なる部分のあることに気づき、賢治が「やまなし」という題名に込めた思いや願いについて考えている。

■ 国語科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

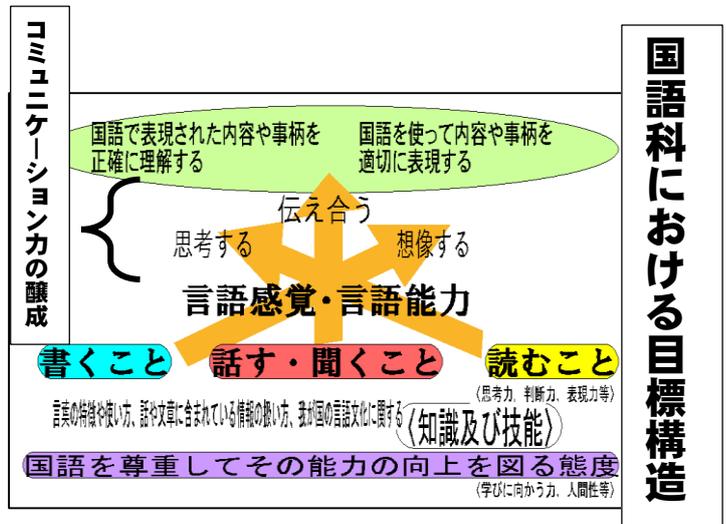
国語科における Ls/Fs 育成のポイントは「コミュニケーション力」

<国語科で目指す子供の姿>

国語科では教科目標の柱立てにおいて、「社会生活」に生きる資質・能力の育成を謳っている。すなわち、単元ごとのねらいとする指導事項を達成するために、日常生活や社会生活と効果的に関わらせた言語活動が不可欠である。

そして、各領域を通して言語感覚を豊かにしたり、言語能力を向上させたりする際には、生徒相互の関わり合い（コミュニケーション）が生まれる。学習指導要領解説にも、思考力や想像力は「認識力や判断力などと密接に関わりながら、新たな発想や思考を創造する」とある。それらは自他や他同士の比較、練り合いにより育まれるものである。

従って、国語科の中で発揮し、育む「コミュニケーション力」とは、学習課題やそれに伴う「言葉」について、自己の認識や判断をもとに、思いや考えを他者と共有する力であると捉える。



国語科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- (1) 日常生活や社会生活と結びつけ、「解決したい」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定～Ⅰ
- (2) 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）～Ⅱ

(1) 日常生活や社会生活と結びつけ、「解決したい」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定

単元導入時には、領域の特性や教材の一部を取り上げながら、ここで身につける力が自身の生活や将来の場面等において、どのような汎用性をもつか見通すことができるよう課題を設定する（発達段階によっては、単元終末時にリライトすることにより、結びつきを強く自覚させる場合も）。また、各一単位時間の学習課題についても、単元課題との有機的な結びつきを明確にしながら設定することにより、生徒が学びの必要性を維持することができる。「コミュニケーション力」が育まれる場面の前段としての「自己の認識や判断」を自律的に獲得するための手立てである。

(2) 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）

単元を通じた課題や一単位時間における課題に対し、個々の生徒が「自己の認識や判断」、あるいは小集団学習における役割を獲得した後に、集団思考（小集団活動の場面を含む）を通して自他や他者同士の意見を比較したり、組み合わせたりしようとするを促す発問・問い返し・指示（条件提示）等を行う。（1）の手立てにより、他者のもつ言葉の感覚や課題における最適解を求める姿勢は、すでに生まれていると考えられる。したがって、発表や話し合いの意味づけや条件づけをその都度明確にする働きかけを行うことで、能動的な関わり合い（コミュニケーション力の発揮・伸長）が生まれるであろう。また、課題に対する「立場」やその「根拠」を、生徒の発言で共通点や相違点等を整理しながら解決に向かわせるよう発問・問い返しを吟味し、適宜講じる。これにより、「思いや考えを他者と共有し」ながら、本時あるいは単元の目標に近づいていくことになると考える。

■本時で目指す児童・生徒の姿

今日の授業における「コミュニケーション力」を高めるためのポイント

本時では、五月と十二月の対比構造に基づいて話し合うことを通して、賢治の生き方・考え方と重なる部分のあることに気づき、賢治が「やまなし」という題名に込めた思いや願いについて考えることができる姿。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

① 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）～Ⅱ

本時で、「カワセミ」と「やまなし」はどんな関係になっているかと発問する（自然とLFを発揮し、「カワセミ」と「やまなし」の関係性について議論になることもある）ことで、児童の思考を五月と十二月の比較・対比に誘う。比較・対比から、賢治の生き方・考え方と重なる部分を見だし、賢治が題名に込めた思いや願いに迫っていく。

「カワセミ」と「やまなし」はどんな関係かな？



やまなしは、かわせみと反対で、自分が食べられることで命を与えるものだよ。



やまなしは、かにの兄弟げんかを終わらせてくれたよ。だから、平和の象徴じゃないかな。



「カワセミ」は「死の世界」で、「やまなし」は「生の世界」だと思うよ。私は、宮沢賢治の生き方・考え方と「やまなし」は関係があるのではないかと思うんだけど・・・。

賢治の生き方・考え方とやまなしは、関係があるってどういうこと？



人のために尽くす賢治が、同じく他者に尽くす『やまなし』を題名にした。



肉・魚を食べず、生き物の命を大切にする賢治は、弱肉強食の世界を好まないため、五月に登場するものは、名前にしなかった。



賢治がすごく体調が悪いのに、農業のことを聞かれて教えに行った姿は、命を縮めてでも人に尽くす感じがした。その姿と、食べられることで幸せを与えるやまなしとは、重なって言えると思うよ。



自分まで先生に怒られるのを覚悟して、友達を助けてあげた賢治の姿は、優しいと思う。「トブン」って優しく川の中に入ってきたやまなしと賢治の生き方は重なっているね。